



園長だより

NO.1 2023年4月 園長 押部 直也

*挨拶

さわやかな春の日差し…だけではなく、夏の訪れのような暑さも感じられる今日この頃。そんな気温差もありながら、新年度がスタートして1か月が過ぎました。スタート直後は、大泣きする子や緊張した面持ちの子、気付けば上履きのまま園庭で走り回っている子など、慣れない環境に必死な子ども達も多かったように思いますが、最近は生活の流れもだんだんと理解しはじめ、自分らしさを少しずつ出せるようになってきました。子ども達の順応性や生きる力には毎年驚かされます。またゴールデンウィーク明けの登園は嫌がる子もいるかと思いますが、我々大人も気持ちはわかる…。まずは家にいたい気持ちを共感し、少しずつ前を向けるよう援助していけたらと思っています。

さて、ご挨拶が遅くなってしまいましたが、今年度より園長に就任しました押部直也です。印西ひかりこども園の開所当時から6年間副園長として勤務しておりましたが、今年度より園長職として気持ち新たに務めてまいりたいと思います。至らない点多々あるかと思いますが、引き続きのご理解とご協力をどうぞ宜しくお願い致します。

*園長だよりへの思い…

就任が決まった際に、“園長としてやれること”を考え最初に頭に浮かんだことは、この園長だよりでした。毎月の園だよりとは別に、子ども達の発達や保育内容、子育て支援、アンケート等でいただいたご意見への回答など、大切にしたいことを言葉にして発信する場にしていききたいと思っています。ただ、継続的、定期的という言葉がとても苦手な園長のため不定期での配信となりますが…、今よりさらに保護者の方々と思いを共有できるよう、努力をしていききたいと思いません。気が向いたときに目を通していただけたら幸いです。

*求められる保育の実践、根拠に基づいた保育の提供

印西ひかりこども園は、養護と教育が一体となった保育を提供していく「幼保連携型認定こども園」です。少し長い名前ですが、国が求める新しいスタイルの園となります。そしてこの養護と教育は日々研究され、定期的に見直しがなされております。どの職種でも同じだとは思いますが、私たち保育者もできる限り、現時点で求められる保育を子ども達に提供すべきであり、新しい知見をより深めていく必要があります。

私が園長としてできることは、専門機関とこども園の橋渡しをしていくことだと考えております。行政や大学などの専門機関との連携を積極的にはかり、時には私自身が研究に携わったり、あるいは養成校で講師をすることで、この印西ひかりこども園が、現時点で求められる保育を実践することの一助となればと考えております。

そして、「なんとなく今まで保育業界がこうやってきたから」ではなく、なぜこの保育の仕方なのか。ということができる限り理由を明確にして、説明できるようにしたいと思っています。少し煩わしい言い方になってしまいますが、専門機関との連携をはかることで、「客観的な根拠」を基にし、昔から引き継がれてきた保育の良い部分は残しつつ、新しい知見をより深めていく。私が思う「求められる保育の実践」「根拠に基づいた保育」とはそんなイメージです。

まだまだ道半ばではありますが、この園長だよりをきっかけにして、一つ一つ課題を意識して取り組んでいきたいと思っています。

*誰もが安心できる施設を目指して

私も保護者の方々と同じように、家に帰れば子どもを育てる親の身でもありません。仕事と子育ての両立の難しさを痛感しながら、家族ともしっかりと丁寧に関われる時間を作らなければ！と思いつつ、時間のせいにして何だかんだとごまかしている日々を過ごしております。

その思いがあるからこそ、子ども達が安心して通える、保護者の方々が安心して預けられる、そして職員も安心して働ける園でありたい。そんなこども園になることを目標にして、園長として日々努力することを約束し、私の挨拶とさせていただきます。今年度もよろしくお願い致します。